

---

# 正しい携帯電話の使い方

会津遊一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

正しい携帯電話の使い方

### 【Nコード】

N3321H

### 【作者名】

会津遊一

### 【あらすじ】

S博士は、ある大発明をした。それを隣人が聞きつけて……。

「これは、今世紀最大の大発明だな」

S博士はそう呟いた。

その声を、空き巣の様に聞きつけた隣の住人が小走りで駆けつけてきた。

どうせ妻にでも怒られ、家の外に叩き出されていたのだろう。

「やあやあ、S博士、こんにちは。今日は、どんな発明が出来たんですか？」

「君か。これを、見てくれ」

S博士は小さくて細い箱を握りしめていた。

「……これは携帯電話ですか？」

「ああ、そうだ。ただし、普通の電話ではないぞ」

「と、言いますと？」

「携帯電話の中に入れる携帯電話なのだ。まさに究極の発明だとは思わないか？」

興奮するS博士をよそに、隣人は冷めた顔で言う。

「それで、具体的に何が出来るんですか？」

「具体的に？」

「ええ、そうですね。車や飛行機は人を運び、テレビは娯楽を産む。非生産性の発明なんて、本当に世紀の大発明なんて言ってもいいんですかね？ 私は、それじゃあ価値はないと思いますよ。」

「う、うーむ、なるほど。携帯電話に入る。この仕組みを思いついた時は大発明だと思ったんだが、言われてみれば何も出来ないかもしれない」

S博士は落胆し、携帯電話をゴミ箱に捨てようとした。

それを隣人が奪い取った。

「まあ、待つてくださいよ。世紀の発明では無いかもしれませんが、これはこれで面白いですよ。2・3日、私に貸してくれませんか」

「それは、かまいませんが、何をするつもりなのです？」

「ふふ、それは妻の悲鳴を聞いてからの楽しみみて所で」

それから、数日経っても隣人は現れなかった。

このまま何の音沙汰もないのは不気味だったので、S博士は表で遊んでいた隣人の子供に話しかけた。

「お父さんは、何処に行ったか知らないかい？」

「家にいるよ。でも、今は出られないんだって」

「出られない？」

「うん、ママがね、携帯電話の電源を切っちゃってるの」

(後書き)

ご感想などありましたら、お気軽に。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3321h/>

---

正しい携帯電話の使い方

2010年10月28日03時27分発行